

岩手県支部

東日本大震災に中小企業診断士はどう対応したか

平成 23 年 3 月 11 日の「東日本大震災」で、県内の沿岸地区の漁業や水産業などの地場産業のほとんどが壊滅的な被害を受けた。そんななかで、支部会員である「中小企業診断士はどう対応したか」を、8 人の会員が執筆したのがこの報告書である。

第 1 部「総論」の構成は、第 1 章「地震と津波の概要」、第 2 章「復興に向けた動き」、第 3 章「中小企業診断協会岩手県支部の動き」、第 4 章「総論の結び」で、支部長である私（宮 健）が執筆した。「総論」のなかで、私が特に紹介したかったのは、以下の 3 点である。

- ①「ワンストップなんでも相談会」（士業懇談会主催、被災地でのべ 9 回開催）と NPO 法人日本リザルツの相談会（平成 24 年 12 月まで 4 回開催）への協力。相談事例（抜粋）も掲載。
- ②グループ補助金（中小企業等のグループへの国・県の補助金制度）への取り組み。
- ③二重債務問題への関わり（岩手県産業復興相談センターへの専門家派遣など）。

第 2 部「各論」では、会員 8 人それぞれの「支援事例」などを紹介した。

小山 剛令：県内最大の被災地・陸前高田市の第三セクター社長としての被災体験と復興に向けた活躍。中小企業診断士として被災企業の再生支援などにも当たっている。

菊池 利美：被災地の仮設商店街に開店した薬局への支援活動に関わった。通常はライバルである同業者が「敵に塩をおくる」ように支援するさまを紹介している。

工藤 伸一：盛岡でダスキンのフランチャイズ店を経営する社長として、全国規模で展開された被災店（県内全損 5 店など）への支援ぶりを紹介している。

猿川 裕巳：被災地に住む次男の婚約者をたずねて、大震災の翌日、陸前高田市に次男とともに出かけて無事を確認。釜石市の旅館の再生支援に携わった事例も紹介している。

高橋 庄平：地方銀行の銀行員として、被災企業の再生支援に関わった記録とともに、被災地・被災企業に寄り添った活躍ぶりを紹介している。

土岐 徹朗：グループ補助金の申請書類の作成に関わる機会が多かった。宿泊施設もなく車中泊や、テントでの宿泊など苦労を重ねた記録を紹介している。

山火 弘敬：「岩手県産業復興相談センター」の副統括責任者として被災企業の再生に向き合っている。相談センター開設までの動きなどを紹介している。

宮 健：支部会員でカネボウ化粧品販売（株）の岩手支社長であった古舘正規さんが大震災当日、大槌町で行方不明になった。支部長として追悼文を執筆した。